TACパワーアップ大会2014を開催!!

今年で7回目となるTACパワーアップ大会。「JAグループの総合力を発揮した部門間連携の促進と農業法人への出向く活動の強化」「JAにおけるTACの活動の位置付けの再確認」をテーマに、熱意にみなぎる大会となりました。

大会宣言

TACの活動をとおして、
一、担い手の将来の夢やビジョンを実現します。
一、将来の地域農業の方向性を見出します。
一、生産者と生活者をつなぎます。

TACを核にしたJAグループの総合力発揮を評価したJA全農 経営管理委員会 中野吉實会長

農業現場における課題解決を期待する農林水産省 農林水産技術会議 雨宮宏司事務局長

この国の未来をともにつくりあげようと呼びかけた全国農協青年組織協議会 黒田栄継会長

農業の現場で奮闘するTACにエールを贈った公益社団法人日本農業法人協会 藤岡茂憲会長

JA全農は、12月4、5日の両日、「TACパワーアップ大会2014」を神奈川県横浜市の新横浜プリンスホテルで開催しました。地域農業の担い手に出向くJA担当者【愛称＝TAC（タック）】を対象とした7回目の全国大会で、509人が参加。担い手と向き合い、農業振興に取り組む全国の事例を共有することで、TACの活動のさらなる深化を目指すのが狙いです。4日は、JA・TAC表彰式、受賞JAによる事例発表が行われました。5日は、受賞TACによる事例発表、分科会が行われました。

開会あいさつでは、JA全農の中野吉實経営管理委員会会長が、7年目の大会を迎えたTACの活動を「目に見えてレベルアップしている」と語り、地域農業の振興に向けてJAの役職員が目標を共有化し、TACの活動を核にJAグループの総合力が発揮されている結果だと評価しました。さらに、全農として引き続きTACの活動を支援し、担い手・生産者に対して誠心誠意対応していくことを約束しました。

来賓あいさつでは、農林水産省農林水産技術会議の雨宮宏司事務局長が、農林水産現場における高齢化、耕作放棄地の増加、担い手不足などの課題を指摘、課題解決に向けて、「地域の潜在力を最大限引き出しながら、国内外の需要拡大の大きな推進力になってもらいたい」とTACの取り組みへの期待を語りました。

また、全国農協青年組織協議会の黒田栄継会長は、農協改革の中で、盟友とともに現場の生産力向上に取り組んでいくことを紹介。TACに対しては、営農指導・販売・購買などを対象とした活動支援に感謝した上で、これまで以上につながりを深めて「この国の明るい未来をともにつくりあげよう」と呼びかけました。

基調講演では、公益社団法人日本農業法人協会の藤岡茂憲会長が、農業法人経営者がJAとTACに期待することを語りました。藤岡会長が経営する法人の「自分の目で見て、自ら値づけする」ビジネスモデルを紹介。TACやJAの役割も、生産強化から販売強化へ、営農指導から経営指導へ変化させる必要があると訴えました。若い農業者へのさらなる支援を呼びかけ、日本の農業の将来は現場にあるとし、現場で働くTACにエールを贈りました。

JA全農の久保省三営農販売企画部長は、昨年度のTACの実績として11万戸の農業経営者に対し、訪問・面談活動が87万回を超えていることを報告。TACの活動のレベルアップに向け、「地域生産振興」や「生活者との信頼関係構築」等により、担い手への支援を支援していくことを宣言しました。

交流会のあいさつでは、JA全農の神出元・代表理事専務が、誕生してから8年目となったTACの活動の継続により、「地域の潜在力を最大限引き出す」支援、ブランドを武器に新規販売先も広がり、販売も好調に推移していると解決しようとする姿勢を高く評価し、TACを激励しました。

全農会長賞を受けるJA新いわての久保憲雄代表理事組合長

全国のTACをはじめ、509人が一堂に会した今大会

大会宣言をするJAこうかの木村郁美氏

事例発表をするJA新いわての舘崎浩昭営農経済部長代理

JA表彰

全農会長賞

岩手県　新岩手農業協同組合

JAと若手の担い手との接点が希薄になっている状況で、信頼関係を築くことを目的に、若手担い手のチームによる農業経営力強化につながる仕組みを構築した。

個人作業が困難な高齢者の土壌消毒作業を支援する作業受託チームの設立や、単価が比較的高い時期に出荷できるキャベツ・トマト栽培に取り組む研究チーム、水稲省力施肥技術を習得するための研究チームを発足させた。JA、JA全農、行政などが一体となり、若手担い手と共に地域の生産維持拡大を図っている活動が評価された。

TACが担い手とJAとのパイプ役を務め、JAの他部署とも結びつける営農支援・農業経営支援の取り組みが、担い手のJA利用実績を前年比で販売高110%（JA全体108%）、購買高111%（同108%）に伸ばす結果を生んでいる。

千葉県　長生農業協同組合

TACの活動と地域農業振興や担い手確保を連動させ労働力補完支援、規模拡大支援、新技術導入支援、契約販売支援、遊休農地対策支援などに取り組んだ。

規模拡大の意向のある若手担い手に対して、ネギ出荷・調製施設の提案、「トマト環境制御型システムの導入支援や大型ハウス導入による規模拡大モデル経営体の育成支援」など、栽培技術指導と併せた担い手が生産に専念できる体制を整備した。また、労働力を求める担い手の意向調査を数値化し、農業無料職業紹介事業を展開する基礎をつくった。「更なる生産振興の拡大・強化」を最重点実施策として位置付け、積極的に担い手の声を反映させた活動が評価された。

結果として担い手のJA利用実績を、前年比で購買高111%（JA全体102%）と伸長させている。

栃木県　塩野谷農業協同組合

TACが起点となり、農業後継者不足の解決に向けた結婚相談事業、外国人技能実習生の受け入れ業務、新規就農者育成の研修事業、水稲栽培の省力化提案など、担い手の問題解決を進めた。

外国人技能実習生の受け入れ業務では、TACが経営者と実習生の間に入り、農業実習と日常生活をサポートしている。また、稲作部会への除草剤散布（豆つぶ剤）の請け負い提案、鉄コーティング水稲直播栽培についてはTAC自身の圃場での試験経験からアドバイスを行うなどした。地域農業を守り、経営の安定化を図ることを使命にした親身になった対応ができていることが評価された。

こうした取り組みの結果として担い手のJA利用実績を、前年比で販売高113%（JA全体102%）、購買高123%（同107%）と伸張させている。

岩手県　花巻農業協同組合

需給関係が不透明な中、農家組合組織・水稲部会・JA役職員が一体となり「米200万袋集荷推進運動」を展開し、実需から求められる産地としての責任を果たすことができた。

買い入れ数量を増やす受け入れ体制充実に向けた取り組みとして、検査場所増設や出荷効力の低減にもつながるフレコン出荷による広域集出荷施設の活用、土曜日検査の実施などの工夫が評価された。

TACは、集落営農ビジョンの策定・実践に係る支援を最重要活動として位置付けており、米集荷協力と併せた支援を行っていることがJA集荷に大きく貢献した。また、生産者への啓発活動として、収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の説明と加入促進を徹底することで、全国の平均的な加入状況と同等レベルを確保することができた。

結果として、担い手の契約数量が前年比で104%（JA全体107%）となっている。

島根県　雲南農業協同組合

頼りになるTACであり続けるために、栽培履歴、土壌分析などの事業データを活用しながら、担い手の意見を反映した地域振興策を提案した。

鉄コーティング水稲直播栽培の提案や、担い手の実態・要望に応じた成分構成の肥料「マイブレンド肥料」など、水稲省力化とコスト低減を進めた。また、行政書士との法人登記内容の点検および融資担当者・農業機械担当者との農業資金借り換え提案など、法人化などの経営形態の変化に適応するよう支援した。こうした取り組みは、JAの総合力を発揮した新しい視点の取り組みが評価された。

「TACに相談すれば解決策を示してくれる」との信頼感が、結果として担い手のJA利用実績を前年比で販売高160%（JA全体105%）、購買高192%（同103%）と大きく伸ばしている。

新潟県　越後中央農業協同組合

米価の低下傾向で法人経営の厳しさが増す中、収益を改善・向上させる取り組みとして、水稲主体法人組織への園芸導入・拡大に注力、加工タマネギ栽培、秋冬ネギの契約栽培、生食用トマト契約栽培などを提案した。

地域の実態に応じた持続可能で最適な営農モデルの実証事業を行い、営農計画策定支援システム（Z−BFM）を活用した、「加工キャベツ」の提案、転作田における増収と品質向上効果が確認されている地下水位制御システム「FOEAS」施工など、販売戦略に基づく作物選定と低コスト省力化技術に積極的に取り組んだ。ノウハウを積み重ね、産地形成や地域農業振興に役立てる取り組みが評価された。結果として担い手のJA利用実績を、前年比で販売高117%（JA全体116%）、購買高107%（同101%）と伸張させている。

JA表彰

担い手への提案内容とその成果が優れたJA
TACの活動を通じてJAの事業効果が上がったJA

JA特別表彰

26年産米集荷に関して、
担い手への提案内容とその成果が優れたJA

JA特別表彰

滋賀県　東びわこ農業協同組合

TACが定期的に担い手を訪問し、平成26年産米の作付け・集荷前から、米集荷に関する意見などを聞き取りした。販売価格の大幅な下落が担い手の経営に深刻な影響を与えないよう、出来秋時の農家所得の最大化を最重要テーマとして、前年を上回る買い取り米集荷計画を立て、通常の概算金単価より、メリットのある提案を行った。特に経営規模の大きい担い手に対しては、流通経費削減分を買い取り米価格に反映することができる庭先から販売先へ直送する取り組みを提案し、所得向上と検査場所への持ち込み労力低減による適期収穫につながったと評価されている。また、担い手や行政とも連携しながら、生協組合員との交流会を企画し、集まった意見を関係団体で共有するなど、今後の生産に役立てられる仕組みを構築している。結果として、担い手の契約数量が前年比で100%（JA全体95%）となっている。

岩手県　花巻農業協同組合

需給関係が不透明な中、農家組合組織・水稲部会・JA役職員が一体となり「米200万袋集荷推進運動」を展開し、実需から求められる産地としての責任を果たすことができた。

買い入れ数量を増やす受け入れ体制充実に向けた取り組みとして、検査場所増設や出荷効力の低減にもつながるフレコン出荷による広域集出荷施設の活用、土曜日検査の実施などの工夫が評価された。

TACは、集落営農ビジョンの策定・実践に係る支援を最重要活動として位置付けており、米集荷協力と併せた支援を行っていることがJA集荷に大きく貢献した。また、生産者への啓発活動として、収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の説明と加入促進を徹底することで、全国の平均的な加入状況と同等レベルを確保することができた。

結果として、担い手の契約数量が前年比で104%（JA全体107%）となっている。

参加者による分科会

参加者を「TAC管理者」と「TAC」に分け、分科会を実施しました。

TAC管理者

TACミーティングの運営に必要な、「質問力・傾聴力・伝達力等」の要素をイメージするために、チームラーニングプログラム（質問会議）を実施しました。

チームラーニングは、意見やアドバイスをするのではなく、質問を中心に行うことで問題の本質が明らかになり、解決の糸口を自発的に見出していく方法として評価されており、各JAの現場で実践していただくことを目的としました。

参加者からの声

■JA対応、担い手対応、職場内での部下に対して、すべての場面において活用できる手法・考え方である旨を感じた。今後の業務の中で十分に活用していきたい。

■質問をする事、聴くことにより、隠れていた課題が浮き彫りになることが多かった。

■相手の気づきを引き出す手法として有効であり必要に応じて活用してみたいと思う。

TAC

1　生活者を意識した具体的な企画の立案

昨年度のTACパワーアップ大会の学科会において、生活形態の変化による食生活の課題を考え、JA・地域の資源を活用した企画を45企画作成しました。この企画に対する生活者の需要と評価を把握するためにWEB調査（1500人）を実施したところ、「農業への関心が高まりそう・楽しそう、JAの企画としてふさわしい」という項目で高ポイントだった2つの企画（※）が選定されました。

今年度は、この2つの企画の具体化に向けた検討を行いました。

※企画A：「ハワイ」をコンセプトに野菜・果物を売る仕組みづくり

企画B：男性農家と都市部女性との一婚活型料理イベント（ターゲット：20〜30代女性）

参加者からの声

■今まで生活者を意識することがあまりなかったが、これからは生活者に向けた取り組みもしていかなければならない。

また、既に取り組んでいるJAがあることに目からうろこだった。特に婚活事業。

■非常に脳を刺激された。今後の地域を担う生活者へアプローチするイメージがつかめた。

■新しい発想や違う視点で考えたことで新しい発見があった。

2　担い手の夢を共有するヒアリングポイントの作成

担い手の農業経営をサポートするために、担い手の情報を収集・メンテナンスする重要性をふまえ、どのように担い手からヒアリングするか等、いかにして情報収集力を強化するかをテーマにし、実施しました。

担い手の農業経営に関する夢・ビジョンを共有するため、ヒアリングポイントを参加者同士で整理し作り上げました。

参加者からの声

■担い手の農業経営の充実が一番大切であり、情報収集の大事さがわかった。

■整理した内容は、TACの傾聴スキルの向上に繋げたい。

■担い手の夢・ビジョンを正しく聴き取ることの必要性を改めて感じた。

TACパワーアップ大会 TOPICS

1　ブースでの情報提供！

全農本所関係部署および関係団体と連携し、ポスター展示を実施。「省力・低コスト等の栽培技術・資材」「生産と販売のマッチングに向けた取り組み」「全国組織の取り組み」などTACから担い手への情報提供や提案支援を行いました。

2　地域の特産品紹介！

【初日交流会】
「JA表彰」受賞5JAの地域のお酒

【2日目昼食】
「JA特別表彰」受賞2JAのお米
（岩手 ひとめぼれ・滋賀 みずかがみ）

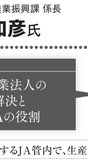
TAC表彰 受賞者（取組事例要旨）

担い手への提案内容に新規性、創造性があり、その成果の優れたTAC

長崎県　島原雲仙農業協同組合
営農部 担い手対策課
山﨑 可織氏
取り組み内容
JA低利用の担い手ニーズに対応した生産資材のコストダウンと花嫁対策事業

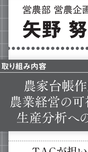
担い手に肥料・農薬の購入を促そうと、競合する商社より早い時期に推進活動を行い、予約奨励金や大口ランク奨励金などを組み合わせて提案。これまで、JAは値段が高いイメージがあったが、良質な資材で、経費も抑えられたと高評価を受けた。さらに、独身女性と青年農業者との出会いの場を設けるなど、きめ細かく地域課題に対応している。

福岡県　福岡八女農業協同組合
営農指導部 農業振興課 係長
安徳 和彦氏
取り組み内容
茶生産農業法人の課題解決とTAC・JAの役割



茶を主体とするJA管内で、生産に携わる18法人、1集落営農組織からの課題を聞き取った結果に基づき、土壌診断に基づく営農指導や肥料など生産資材の推進強化、融資条件の一部緩和を実現した。「JAができることはJAにお願いしたい」という流れもでき、全国茶品評会で農水大臣賞を受賞した法人から「TACのおかげ」と感謝された。

愛媛県　愛媛たいき農業協同組合
営農部 営農企画課
矢野 努氏
取り組み内容
農家台帳作成による農業経営の可視化と農業生産分析への取り組み



TACが担い手の基本的な農家台帳（農業従事者数・経営作物など）や年間作業カレンダーなどの制作を行い、経営状況の可視化に取り組んでいる。品目ごとの生産指導だけでなく、担い手の経営全体を把握した中で農業生産分析を実施し、農家所得の向上を図っている。この取り組みで、ある夏秋キュウリ農家は、全品目の販売額が前年比25%増えた。

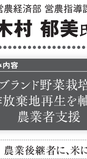
島根県　斐川町農業協同組合
営農部 営農企画課 主任
原 紀行氏
取り組み内容
労務管理・経営改善に向けた支援

恒常的な人材流出など、経営不安を抱える地域を代表する農事組合法人の経営面全般にわたる支援を行った。労務管理、人事管理の強化策を提案したり、財務諸表や面談を通じて経営分析を行い、運営支援も行った。法人は給与・人事規程の整備に向けて動き出し、経営も改善した。JAと法人役員との信頼関係も一層強まった。

滋賀県　甲賀農業協同組合
営農経済部 営農指導課
木村 郁美氏
取り組み内容
ブランド野菜栽培と耕作放棄地再生を軸とした農業者支援

農業後継者に、米に替わる収入源として、JA管内で産地化を進めるブランドネギ「忍葱」を提案した。土壌条件に合わせた栽培指導に始まり、耕作放棄地を耕して担い手に提供するJAの取り組みを活用し、安定生産につなげた。新たに取り組んだタマネギでも定植機を貸し出すなど支援。ブランドを武器に新規販売先も広がり、販売も好調に推移している。

福井県　福井丹南農業協同組合
指導部 営農課
山田 有彦氏
取り組み内容
大規模水田園芸への取り組み



退職を機に、兼業から専業へと転身した農家の経営規模拡大と所得向上を図ろうと、新たな園芸作物として白キギとキャベツを提案した。JAでも取り扱ったことのない品目だったが、県や経済連なども巻き込み、技術指導や農機のレンタル、県補助金の申請など徹底して支援。順調に売り上げを伸ばし、園芸振興のモデル農家に育った。

新潟県　かみはやし農業協同組合
営農部 マーケティング部門 主任
高野 貞昭氏
取り組み内容
TAC活動を工夫し楽しんでやってきた。すると結果もついてきた。

「TACは何でも屋」をモットーに20名以上の大規模農家とのパイプづくりに努めた。稲作地帯にあって、省力化技術の提案や若手後継者向け研究会を発足させたり、大規模農家や法人など担い手同士の懇談会にも力を入れた。JAの地域での存在感が増したことで、平成26年産のJAの米集荷数量は、TAC活動前の23年産に比べて105%になった。

秋田県　あきた白神農業協同組合
経済部 経済課 係長
伊藤 隆一氏
取り組み内容
「白神ねぎ」10億円販売に向けた生販マッチング支援

JAのブランドネギ「白神ねぎ」の販売額10億円達成を目指し、担い手に栽培を働き掛けた。TACと営農指導員が連携しながら説明を重ね、きめ細かい栽培指導を約束することで信頼を確保。今年度までに新たに1人が50㌃で栽培するなど面積拡大に成功した。この取り組みを受けて平成27年度は2法人と2人の生産者が加わる見込み。

TAC（タック）とは、「地域農業の担い手に出向くJA担当者」の全国統一愛称です。

TACの役割

①地域農業の担い手に訪問してご意見・ご要望をうかがい、誠実にお応えします。
②地域農業の担い手の経営に役立つ各種情報をお届けします。
③地域農業の担い手のご意見を持ち帰り、JAグループの業務改善につなげます。

TACの由来

Team for Agricultural Coordination
JAグループが一体となって地域農業をコーディネートします。